

赤谷プロジェクト 近況報告

赤谷の森自然散策を実施

一般の方々に「赤谷の森」(＝赤谷プロジェクト)をもっと知ってもらうための活動の一つである、赤谷の森自然散策が、エゾハルゼミが鳴き始めた5月27日に開催されました。

当日は春の陽気の中、参加者の皆さんはリスやムササビの食痕からその生活を想像したり、声はするけど姿が見えないタゴガエルの話を聞いたり、植物の種子散布の巧妙な戦略や森林の仕組みとそれを利用してきた人間の営みについて、赤谷プロジェクト地域協議会の会員でもあるガイドの方の巧みな話を楽しまれたことと思います。



「赤谷の森自然散策」の一コマ
小出侯のシンボルツリーである大カツラを囲む参加者



猛禽類モニタリング研修では、講義の後、実際に観察を行いました

また、散策の途中には赤谷プロジェクトで実施している自然再生試験地があり、ここでは、赤谷センター職員から赤谷プロジェクトの取組を解説しました。

参加者からは、「生態系の保全、生物多様性の具体的なイメージについてもっと学びたい」、「プロジェクト作業に参加できるようなプログラムが組めないか」と言った積極的な要望もあり、関心の高さが伺えました。

今回は春の「赤谷の森」を歩きましたが、この企画は秋と冬にも計画されており、次回はまた違った「赤谷の森」を感じることができるようではないでしょうか。興味のある方は是非ご参加下さい。

「赤谷の森」で森林ふれあい 実務研修を開催

関東森林管理局管内の森林官やふれあい係長を対象とした「森林ふれ

あい実務研修」が「赤谷の森」で開催されました。

この活動は本年度より始まったもので、センター職員が講師となり、①赤谷プロジェクトの概要、②植生復元モニタリング調査、③猛禽類モニタリング調査、④ホンドテンのモニタリング調査、⑤溪流環境に配慮した治山事業について、⑥赤谷プロジェクトにおける環境教育手法、の6つの研修プログラムを、野外実習を中心に3日間に渡り実施しました。

これらのプログラムは赤谷センターが日々の業務の中で行っていることでもあり、研修生からは「赤谷プロジェクトの詳しい活動内容を知ることができた」、「猛禽類についての漠然とした認識を改めることができ、これからの森林管理のあり方も変わっていかねければと感じた」といった感想が寄せられました。また、森林環境教育については「今まで以上に



治山事業が行われる沢を歩きながら、どのような取組が行われているのか解説しました

動物等を観察し、フィールドサインを見逃さないようにして、森林環境教育に活かしたい」、「センサーカメラを森林環境教育に活用したい」といった意見もありました。

このような研修の機会、特に若手職員の皆さんに対しては、国有林の中でも様々な活動があることを知って頂ける機会でもあり、とても有意義なものであると感じています。

(赤谷森林環境保全ふれあいセンター)